

# 広島・長崎の悲劇

# よう非核平和運動



広島に落とされた核爆弾

## 「非核平和の町」宣言文

世界の恒久平和と安全は、私たち人類の共通の願いであります。

しかし、この普遍の願いにもかかわらず、核保有国による軍備拡大はエスカレートするばかりで、人類は核戦争の脅威にさらされています。

私たちは、ただ一つの被爆国として、核の惨禍を二度と繰り返さぬよう、「核を持たず、つくらず、持ち込ませず」の非核三原則の完全実施を願い、すべての国のあらゆる核兵器がすみやかに廃絶され、人類永遠の平和が確立され

町では、昭和62年に「非核平和都市宣言」をしました。

伊藤はるさん（県退職婦人教職員の会・横芝分会長）ほかの請願をうけてのものです。平和な世界の実現を願って、各地域で、職場で、家庭で、この運動を盛り上げてほしいものです。

## 回想

## 広島に見た核の恐怖



宇井英雄  
(両国新田)

昭和二十年八月、私の所属する部隊は、広島市を囲む中国連山の中でも一番高い哨舎に駐屯し、激しい訓練に明け暮れておりました。

六日の朝八時過ぎ、小休止の終わる頃、左方上空に黒点を一つ見つけ、みんなで注視しているうち、それが空の要塞B29戦略爆撃機であることに気がきました。

突然、連山の向こう眼下でピカッピカッという激しい真っ赤なはじけるような閃光が目撃された。

茫然としていたところ、「ドドン」という大きな音が響き、次の瞬間、はるか広島市と思われる空に、すーっと一筋の真っ白な雲が細長い足の上にかさ状の頭をつけ上昇

し始め、みるみるうちに足は太くなり、頭部はものすごい勢いで中から外へきのこ状の噴煙を激しく繰り返しながら上昇を続けました。……どの位時が経ったかは記憶にありませんが、その直下に地獄のような惨状が起きているとは夢にも思っていませんでした。

## 地獄絵巻の惨状

部隊に出動命令が出されたのは、それから約二時間近く経つてのことでした。

野を越え、山を越えて市街地に着いたのは、夕闇が迫った頃でした。

燃える街を背にして、歩く人々の異常さにも驚かされました。髪は焦げ、露出しているところは全部焼けただけ歩く姿は亡霊そのものです。

「大変なことが起こったな」それ以外は何もわかりませんでした。